

第2学年 英語Ⅱ 前期末考査の作成にあたって  
 ～定期テストの波及効果を授業改善に生かすために～

1 はじめに

「授業と評価の一体化」を基本に本テストの作成にあたった。内容のまとまりに関して言えば、「話すこと」はインタビューテストや活動の観察、発表などにおいて評価されるべきであるが、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」は、定期テストにおいて授業内容のかなりの部分を忠実に評価できるものと思われる。また、定期テストは、全教科にわたって規定され、まとまった時間（50分）が確保されているため、先の3つの内容のまとまりを包括的に評価できる。その状況を踏まえ、授業内容ができる限り反映されるようテスト作りを心掛けた。

また、テストが与える波及効果もねらいとした。実際、生徒はどういうテストが出題されるかに大変関心がある。それは、授業に臨む姿勢にも大きく影響し、意欲・関心が高まるだけでなく、学習すべきことを意識することにより効果的な学習につながる。通常、テスト範囲を提示する程度であるが、今回は問題形式と同形式で過去に出題した問題を提示した。

さらに、テスト後の波及効果を考慮に入れ、次回の定期テストを節目として、どう授業に取り組んでいけばよいか気づかせる仕掛けとなるよう留意した。

2 期末考査における評価の対象

表（1）、表（2）の通り、期末考査は、ペーパーテストであるため、「話すこと」を評価の対象から外した。また、「コミュニケーションの意欲・関心・態度」についても、授業中の活動またはその活動の結果を評価の対象とし、本テストでは評価しない。

表（1） 評定のウェイトバランス表

観点		配分 (%)	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 表現の 能力	ウ 理解の 能力	エ 言語や文化 についての 知識・理解
評価方法						
一 斉	定期テスト（4回）	50		10	20	20
	インタビューテスト（2回）	10		5	5	
授 業 時	発表の評価	10	5	5		
	活動の観察	10	5	5		
	授業プリント・作品	15		5	5	5
	小テスト	5				5
観点別合計		100	10	30	30	30

表（2） 前期末考査の「内容のまとまり」と「評価の観点」ごとの配点表

観点		配点	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 表現の 能力	ウ 理解の 能力	エ 言語や文化 についての 知識・理解
内容のまとまり						
聞くこと		20			20	
読むこと		40			30	10
話すこと						
書くこと		40		10		30
観点別合計		100		10	50	40

### 3 問題設定の趣旨（内容のまとめりと評価の観点）

#### 1 【聞くこと－理解の能力】

既習のまとまった英語の文章を聴かせ、正確な内容把握の能力を測定した。授業時、各 Part の導入において、教科書を閉じたままテキストのCDを聴かせ、口頭による True or False Questions を行っている。授業とはほぼ同じ形式で出題している。異なる点は、授業では、テキストの難易度、生徒の家庭学習状況に応じて、テキストを聴かせる回数を2回または3回に変えている点である。本テストでは、まとまった英語の文章を1回、問題文を2回繰り返すこととした。

#### 2 【聞くこと－理解の能力】

既習のまとまった英語の文章を聴かせ、正確な内容把握の能力を測定した。授業時、テキストの内容把握の手段の一つとして、口頭あるいは、学習プリントで Questions and Answers を行っている。口頭の場合は、質問に対して、最小限の応答の仕方（疑問詞に対する答えや Yes/No）で十分としている。本テストでは、質問に対して、完全な文による選択肢をテスト紙面に記載した。これは、口頭による応答の代わりであり、完全な応答文を書かせることが聞き取りの能力の測定につながらないためである。

#### 3 【読むこと－理解の能力】

既習のまとまった英語の文章を読ませ、各パラグラフの概要及び前後の文のつながりが掴めているかを測定した。空所は、およそ20語毎に設定してあるが、無作為に空所を設定するには、テキストの分量が十分でないため、テキストの内容を把握する上で、鍵となる語を中心に選択させることとした。授業時には同形式の設問を与えてはいない。しかし、retelling(reproduction)の活動を各 Part で行っており、読み込みの段階において、内容語に注意させている。また、ここでは、知識・理解を測定する意図はないが、空所の前後の語に関して、文法・語法が定着していれば、大きなヒントとなる。

#### 4 【読むこと－理解の能力】

既習のまとまった英語の文章を読ませ、正確な内容把握の能力を測定した。授業時、テキストの内容把握の手段の一つとして、口頭あるいは、学習プリントで Questions and Answers を行っている。筆記の場合は、主語＋動詞～、質問文の形式に即した応答、代名詞や代動詞の使用に留意させている。本テストにおいては、理解の能力を測定するものであるため、最小限の応答の仕方（疑問詞に対する答えや Yes/No）でも十分とした。

#### 5 【読むこと－理解の能力】

既習のまとまった英語の文章を読ませ、概要を把握する能力を測定した。授業時、学習プリントで同様の設問を与えている。retelling の前段階として、あるいは、モデルとしての役割を与えている設問である。空所には、できる限り retelling する上でのキーワードとなる語を書かせるようにした。また、授業では、前時の復習・展開時に、速読練習（黙読）として意味のまとめりごとに文を読み進め、時間の計測を行っている。よって、速く読むことができる者は、解答時間の短縮につながる。

#### 6 【読むこと－言語や文化についての知識・理解】

関係代名詞の用法についての理解を測定した。出題範囲においては、関係代名詞の非制限用法が新出であるが、既習の制限用法や what についても出題した。まとまった文章の中でどのように関係代名詞が使われているかという点に焦点を絞り、一文一文の構造と意味を捉えることが要求されている。関係代名詞の後に3語書かせたのは、場所を明確にするためと、制限用法・非制限用法の表記の違いが理解できているかを確認するためである。

#### 7 【書くこと－表現の能力】

テキストや関連事項について、自分の考えを整理して、まとまった分量の英文で表現できるか測定した。授業時に行っている活動であり、設問自体、生徒に実際に書かせたものである。授業同様、1つのテーマにつき、3文以上の英語で書き表すこととした。テーマは、該当するテキストの内容をよく把握していることが前提となっている。また、3文以上という条件は、自分の考えを筋道を立てて書くには3文以上は必要であるという考えに基づいて設定した。

#### 8 【書くこと－言語や文化についての知識・理解】

関係代名詞の用法についての理解を測定した。出題範囲においては、関係代名詞の非制限用法（先行

詞は語句と節の両方)と関係代名詞～前置詞、前置詞＋関係代名詞～の用法が新出であり、設問のほとんどに反映させている。ただし、既出の制限用法との違いが理解できているかを確認するための設問も与えた。問題文中の代名詞(it)が何を指し、どの関係代名詞にとって代わられるのか理解できていることが要求される。

#### 9 【書くこと一言語や文化についての知識・理解】

新出語句について、綴りを正確に書くことができるかを測定した。各問題文の読解力も必要とされるが、範囲が限定されている上に、新出重要語句として、授業時に注意を促してあるので、語頭の文字が大きなヒントとなっている。

#### 10 【書くこと一言語や文化についての知識・理解】

授業時、文法的・構造的に理解の難しい項目として取り上げたものを出题し、初出の文においても文の意味と関連付けて、用法が理解できているかどうかを測定した。授業では、テキスト内での用法や意味の確認と複数の例文を提示することにより定着を図っている。

### 4 出題の結果と授業へのフィードバック

#### 【聞くことー理解の能力】

語彙が次第に難しくなっているため、音を判別する力があっても、内容把握のためのキーワードの意味が分からず、正解に辿り着けなかったり、集中力を持続させられなかったりする生徒もいた。「言語や文化についての知識・理解」の点で、定着させるべきは定着させることや、パラフレーズして簡単な語彙に言い換えて出題することが必要とされる。

#### 【読むことー理解の能力】

各問題のまとまった英文の量自体にかなりのボリュームがある。授業時に読む速度を計測する際に取り組んでいる文章と量・内容ともに同じであるが、限られた時間内に解答する必要があるため、学力の低い生徒はあまり得点できなかった。長い文章を問題意識を持ちながら我慢強く読み進められるよう同一の文章に対して易しいものから難しいものまで、さらに様々な問題設定をしていく必要がある。

#### 【読むこと・書くこと一言語や文化についての知識・理解】

いわゆる文法・語法問題であるが、定着していない。授業内で何度も繰り返し説明しているにもかかわらず、設問の形式を変えただけで答えられない者が多かった。問題演習という特化した形で、もっと数をこなす必要がある。また、基本的なものは実際に使わせる、即ち、「話すこと」「書くこと」に時間を割き、表現しながら定着させる必要がある。

#### 【書くことー表現の能力】

既出の問題を再度出題したが、学力の高い生徒は容易にこなし、そうでない生徒は白紙解答が目立った。今後は前者、後者のそれぞれが取り組むのに適当な出題をする必要がある。例えば前者には初出の問題を、後者には既出の問題を出すなど難易度に差をつけたい。また、分量については、3文以上から5文以上、さらには10文以上と増やしていきたい。

#### 【その他】

テスト範囲の提示だけでなく、事前に問題形式や同形式の過去問題を提示したのは、大変な効果があった。同時期にライティングの定期テストでも同じ手法をとったが、両テストともに大きな効果があった。理解・定着以前に、生徒が取り組むかどうかという「取っ付き易さ」が生徒にとっては大変重要なポイントである。学びの拒否に陥らせないためには、必要な措置と言える。

### 5 来年度への課題

- ・ テスト問題がより一層授業時の学習活動に基づいたものとなるよう、研究を重ね、授業改善に生かす。
- ・ テスト問題の妥当性を検証するために、設問ごとにデータを取る。個々の生徒にとってどの程度波及効果があったか、同一形式の複数回にわたる定期考査において定点観測する。
- ・ 授業やテスト、評価方法に関して生徒に評価させる。評価方法としては、点数化とアンケート形式の両方を実施し、生徒自身の学習姿勢についても自己点検させる。

- ・ 3年次に設定されているリーディング、ライティングにおいても、それぞれ「読むこと」あるいは「書くこと」に特化せず、いかに4つの内容のまとまりを組み合わせるかで授業展開できるか研究する。